

地域活性化研修③ 実施レポート

日時：令和元年9月27日（金）13時～16時 会場：県立ゆり支援学校 参加者：35名

県内各地を訪れ、学びを生かした地域づくりの実際について理解を深める「地域活性化研修」を開催しました。「コミュニティ・スクール実体験！」をテーマに県立ゆり支援学校で研修を行い、基礎的な知識や実践事例を学んだほか、ワークショップでは「熟議」の体験も行いました。

【講話】

はじめに「コミュニティ・スクールって何？～基本を確認しよう～」のテーマで、生涯学習センターの**皆川雅仁主幹**が講話を行いました。

コミュニティ・スクール（CS）は保護者・地域住民・学識経験者・学校長等によって構成される「学校運営協議会」を設置した学校であり、学校の方針や活動に地域のニーズを的確かつ機動的に反映させ、最終的には持続可能な地域づくりに生かすことが目的であると説明しました。

また、自身が学校長としてコミュニティ・スクールの立ち上げと運営に関わった経験から、コミュニティ・スクールを手段（ツール）として学校と地域が「ゆるやかなネットワーク」のもとで目標を共有し、それぞれが役割を果たす「運命協働体」となっていく過程を紹介しました。



＜学校と地域は「運命協働体」＞

【実践紹介】

次にゆり支援学校の**田口睦子校長**から、ゆり支援学校のCSの取組について紹介していただきました。同校では、地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされる学校を目指して、地域応援活動や、地域資源を活用した職業活動、交流活動を進めています。学校運営協議会は昨年度から設置し、同じくCSを導入している由利本荘市内の各校とも連携や交流を深めつつ、地域における障害者理解や職業教育の充実に取り組んでいるとのことでした。

今年度は、学校運営協議会のメンバーに保護者や教員も交えて実際に「熟議」を行いました。熟議での話し合いを、余暇活動の充実や住民との交流など、学校の具体的な活動につなげていきたいとのことでした。



＜CSで障害者理解の促進も期待＞

【ワークショップ】

コミュニティ・スクールを推進するためには、関係者が同じ目標を共有することが大切であり、「熟議」はそのための有効な手法です。ワークショップでは、生涯学習センターの**柏木睦主任社会教育主事**がファシリテーターとなり、「障害のある子どもに、どのように育ってほしいか」をテーマに熟議を体験しました。

2回のグループ替えを行いながら、約80分にわたって意見を出し合いました。話し合いを重ねていくことで、それぞれの意見が「社会や人と関わること」「自分を肯定し、大切にできること」「周りから理解され、必要とされること」といったキーワードに集約されていきました。こうした過程を体験することで、目標を共有する意義や手法を理解することができました。



＜様々な立場の方が参加しました＞

結びに皆川主幹が、「いくら話し合いを重ねても、全員が同じ方向を見ていなければ意味がない。目標を共有し、課題の解決に向けて協働していくために熟議が必要である」ことを説明し、研修をまとめました。

【参加者の声】（抜粋）

- ・なぜ熟議が必要なのか、何のために行うのか理解することができました。参加して良かったです。
- ・自分とは違う立場の方から意見をざっくばらんに聞くことができ、参考になりました。
- ・熟議の結果について、自分の中で捉え方が変わった。CS全体で意識の共有を目指していきたい。
- ・熟議を自分の学校でも実施したいと思います。